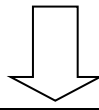


## 【2】行動分析および【3】支援例

平成 年 月 日 ( )

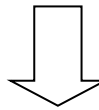
年 組 番 氏名

①	聞くことが苦手な場合
行動分析	1 教師の指示や話のテンポが速いと理解できない
	2 語彙力や知識の不足のため、話の内容が理解できない
	3 話し手が次々に変わるとその変化に追いつけず、内容が理解できない
	4 具体的な説明や指示がないと分からない
	5 相手の意見を受け入れることができず、従うのが苦手である
	6 注意集中が困難で、長い説明が分からない



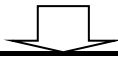
支援例	ア 例示や絵を示して内容が分かりやすくなるように工夫する
	イ 話す内容の大まかな流れをプリントにして渡す
	ウ 指示を出すときは、一回で一つの指示にとどめる
	エ 長い説明は避け、必要な情報を「短く・はっきり・ゆっくり」話す
	オ 指示語を使わないで、できるだけ具体的な指示を出す(例 あれ片付けて→ボールを籠にしまって)
	カ 話をする前に、生徒に呼びかけやアイコンタクトを取り注意をひきつけてから話す
	キ 話し終わった後に、生徒に話の内容を確認する
	ク 話を聞く場所は雑音や他の刺激の少ない環境にする
	ケ メモを取る習慣をつけさせる
	コ 話した内容・連絡事項などを板書しておく
	サ 本人の意見を聞いてから、吹き出しを使ったメモなどを活用してこちらの意見を伝える
	シ 本人が理解している言葉を使う
	ス 情報機器(ICレコーダー等)の活用をする

⑥	推論することが苦手な場合
行動分析	1 記憶力が弱い
	2 抽象的に考えることが難しい
	3 論理的に考えることが苦手である
	4 イメージをして、推測することが苦手である
	5 順序立てて物事を考えるのが苦手である



支援例	ア どの段階でつまづいているか個別に確認する
	イ さまざまな例を示すことで、論理化や抽象化のパターンを示し、それを利用して考えるように教材を工夫する
	ウ 考えや取り組むことを書き出すことで視覚化させ、それをもとに優先順位や重要さの順に並べさせる
	エ 要点やポイントになる言葉に印を付ける
	オ ポイントになることを絵や図に書いて、視覚的に示す

⑪	こだわりが強い場合
行動分析	1 自分が得意な分野や習慣化した行動に対してこだわりが強い
	2 予定が変更されると活動の見通しがもちにくい
	3 言葉の説明だけでは、理解できない(聴覚活用が苦手)
	4 特定の分野の知識は優れている
	5 思いこみが強い



支援例	ア 生徒がこだわっている行動や物事がどのようなものかよく話を聞いて受容をする
	イ 得意なことを伸ばし役立てることを考える
	ウ こだわりを個性の一つだと理解し、支障のない範囲でうまく合わせて受け入れる
	エ 生徒がやり直しややり残しにこだわっている場合は、その気持ちを受容して、時間と場所が確保できればそれに取り組むことができる機会をもつ
	オ 言葉だけでなく文字やイラストなども使って、予定はなるべく前もって伝える
	カ ルールを守ることにこだわり、他人を許せない場合は、生徒と一緒にその状況を話し合う機会をもつ
	キ 考えの変更を迫るのではなく、周囲の者が別の視点を与えたり気持ちの切り替えをしたりするなどして他の考えや手段があることを提示する